

※ 本リリースは国土交通記者会・交通運輸記者会に配布しております。

平成 26 年 11 月 20 日

理事長 松山 良一

「平成 26 年度日本政府観光局(JNTO)国際会議誘致・開催貢献賞」を決定 ～受賞会議の発表と授賞式の開催について～

(概要)

○本賞は、国際会議主催者及び都市・推進機関の優れた功績を称えることにより、国際会議^(注)誘致・開催の意義の普及啓蒙や更なる推進を図るため、平成 20 年度より設けられ、今年度が 7 回目の実施。
○今回は、平成 25 年度中に誘致・開催された国際会議の中から、各コンベンション推進機関より過去最多となる 35 会議の推薦があり、コンベンション有識者で構成される審査委員会での審査を経て、国際会議誘致の部 4 件、国際会議開催の部 8 件の計 12 件が選出された。

(注) 国際会議・・・ JNTO が定める統計基準に適合する国際会議(※)

※JNTO 基準・・・国際機関、国際団体(各国支部を含む)または、国内機関・国内団体(民間企業以外)が主催した会議で参加者数 50 人以上、参加国数 3 カ国以上、開催期間 1 日以上

1. 「平成 26 年度日本政府観光局(JNTO)国際会議誘致・開催貢献賞」授賞式概要

- 日 時 : 平成 26 年 12 月 9 日(火) 13:30~14:30
- 場 所 : 東京国際フォーラム「第 24 回 国際ミーティング・エキスポ(IME2014)」
会場内 (東京都千代田区丸の内 3 丁目 5-1)

●受賞会議(順不同)

【国際会議誘致の部】

- ・第 8 回世界盆栽大会 (2017 年、さいたま)
- ・第 23 回世界神経学会議 (2017 年、京都)
- ・2018 年 IWA 世界会議 (2018 年、東京)
- ・第 22 回国際栄養学会議 (2021 年、東京)

【国際会議開催の部】

- ・第 12 回アジア太平洋薬学生シンポジウム (船橋及び千葉)
- ・第 20 回 ITS 世界会議東京 2013 (東京)
- ・国際酪農連盟ワールド デイリーサミット 2013 (横浜)
- ・第 2 回国際技学カンファレンス in 長岡 (長岡)
- ・国際commons学会第 14 回世界大会(北富士大会) (富士吉田)
- ・第 16 回コンピュータ医用画像処理ならびにコンピュータ支援治療に関する国際会議 (名古屋)
- ・2013 年京都国際地理学会議 (京都)
- ・第 11 回世界生物学的精神医学会国際会議 (京都)

※詳細別紙のとおり

昨年の授賞式の様子



2. 取材について

取材を希望される記者の皆様は、当日会場報道関係者受付までお越しください。

本件に関するお問い合わせ先：
コンベンション誘致部(松井、橋本、川崎)
TEL: 03-3216-2905



平成 26 年度日本政府観光局（JNTO）「国際会議誘致・開催貢献賞」

受賞会議

■国際会議誘致の部 4 件

効果的な PR や開催立候補による諸外国との誘致競争の結果などにおいて我が国への誘致に成功した国際会議

受賞会議					
会議名	和文) 第 8 回世界盆栽大会 英文) The 8th World Bonsai Convention				
主催者	第 8 回世界盆栽大会 実行委員会	開催都市	埼玉県 さいたま市	開催期間	2017 年 4 月 27 日～ 2017 年 4 月 30 日 (4 日間)
参加予定人数	1,000 名 (海外: 700 名 国内: 300 名)			参加予定国数	28 カ国
競合国 (都市)	台湾				
受賞理由	<ol style="list-style-type: none"> 誘致委員会に経済産業省・JNTO・県・市・商工会議所等が参加し、国と自治体・主催者が一丸となって、効率的・戦略的に誘致活動を行った。 開催決定地である中国への渡航前に、日本盆栽協会や大宮盆栽協同組合が首相を表敬訪問。農林水産省副大臣が世界盆栽大会誘致レセプションに出席。また渡航に際しては、在上海総領事館の協力を得て、総領事がレセプションに参加する等、国のサポート体制を存分に PR した。 1989 年同市で開催された第一回大会開催以来、28 年振り 2 度目の開催が決定した。 				

受賞会議					
会議名	和文) 第 23 回世界神経学会議 英文) The 23rd World Congress of Neurology				
主催者	一般社団法人 日本神経学会	開催都市	京都府 京都市	開催期間	2017 年 9 月 16 日～ 2017 年 9 月 21 日 (6 日間)
参加予定人数	7,000 名 (海外: 4,000 名 国内: 3,000 名)			参加予定国数	約 120 カ国・地域
競合国 (都市)	香港・韓国 (ソウル)				
受賞理由	<ol style="list-style-type: none"> 主催者と国、自治体、施設、PCO、JNTO が一つとなった誘致活動が行えたこと。 投票権者に対して、綿密なロビー活動及び票読みを実施。投票前日に行われた、JAPAN NIGHT には在オーストリア特命全権大使にご出席頂き、ロビー活動並びに、国の支援体制 PR を実施。 投票直前のプレゼンテーションでは、大震災における支援に対する各国への御礼から始まり、前半の真面目さ、後半の笑いが入る柔らかさをうまく使い分けたメリハリのあるプレゼンテーションが評価された。事前の国際本部 WFN による視察評価では、競合のソウル・香港に比べ評価が低かったが、他国が資金、観光等の面を主に PR する中、日本は高度な学術、具体的な会議のイメージを PR し、見事誘致を勝ち取った。日本での開催は 1981 年以来、36 年振りとなるが、欧州の 3 カ国以外では初の 2 回開催国となる。 				

受賞会議					
会議名	和文) 2018 年 IWA 世界会議 英文) The IWA World Water Congress & Exhibition 2018 Tokyo				
主催者	2018 年 IWA 世界会議 招致推進委員会	開催都市	東京都	開催期間	2018 年 9 月 (6 日間)
参加予定人数	6,000 名 (海外: 2,000 名 国内: 4,000 名)			参加予定国数	約 80 カ国・地域
競合国 (都市)	非公表				
受賞理由	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東京都、関係学会・協会、コンベンションビューローが結集し、誘致活動を行った。更に、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省各大臣、観光庁長官、JNTO のサポートレターの発出を受け、ALL JAPAN 体制を構築。 2. 東京で開催した場合のコスト高の懸念を払しょくする会場計画やスポンサーシップ、収支計画について詳細に記した提案書が評価された。 3. また、日本の水道の管理・処理技術の先進性や 2012 年 IWA アジア太平洋地域会議 (東京) の成功等、日本の国際コミュニティへの寄与が評価され、日本での初開催が決定。 ※IWA・・・the International Water Association：国際水協会				

受賞会議					
会議名	和文) 第 22 回国際栄養学会議 英文) 22nd International Congress of Nutrition				
主催者	ICN2021 誘致準備 ワーキンググループ	開催都市	東京都	開催期間	2021 年 10 月 5 日～ 2021 年 10 月 10 日 (6 日間)
参加予定人数	4,500 名 (海外: 1,700 名 国内: 2,800 名)			参加予定国数	約 120 カ国・地域
競合国 (都市)	中国 (北京)、アイルランド (ダブリン)				
受賞理由	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本学術会議 IUNS 分科会、日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会の 3 組織が誘致準備 WG を結成。WG、関連学会、政府、都、東京観光財団、JNTO、施設、PCO が一丸となり、ALL JAPAN 体制で誘致活動を実施。 2. 他都市と比べて綿密な開催計画、国際会議都市としての東京の会議施設、宿泊施設、国際アクセスが評価された。 3. また、本分野に対する、日本の栄養関係学会の長年の国際活動に加え、会議開催を通じて更なる発展に貢献したいという熱意が評価され、1975 年以来 46 年振りの日本開催が決定した。 				

■国際会議開催の部 8件

国際会議開催にあたり会議運営、地域貢献などにおいて、今後の模範となる実績を上げた国際会議

受賞会議					
会議名	和文) 第12回アジア太平洋薬学生シンポジウム 英文) The 12th Asia Pacific Pharmaceutical Symposium 2013 in Japan (APPS)				
主催者	一般社団法人 日本薬学生連盟 (APS-JAPAN)	開催都市	千葉県 船橋市 及び 千葉市	開催期間	2013年8月22日～ 2013年8月28日(7日間)
参加人数	494名(海外:370名 国内:124名)			参加国数	11カ国・地域
受賞理由	<p>1.開催準備から運営に至るまで学生を中心に実施。学生にとって、薬学の勉強だけでなく、国際会議に直接関わることができる大変良い機会であった。</p> <p>2.ちば国際コンベンションビューローは、大学会場の無償借用交渉の窓口、メイン宿泊会場、Gala Party 会場との料金交渉の窓口となり、学生を支援。</p> <p>3.コンベンションビューロー、そしてそれに応える民間企業との協力体制が、開催成功に大きく貢献。</p>				

受賞会議					
会議名	和文) 第20回 ITS 世界会議東京 2013 英文) 20th ITS World Congress Tokyo 2013				
主催者	ITS 世界会議東京 2013 日本組織委員会	開催都市	東京都	開催期間	2013年10月14日～ 2013年10月18日(5日間)
参加人数	3,935名(海外:1,386名 国内:2,549名)			参加国数	69カ国・地域
受賞理由	<p>1. 東京国際フォーラム、東京ビッグサイトという東京の2大 MICE 施設を使用した他、屋外展示場や公道を使用したデモンストレーションを実施する等、MICE シティ東京を PR した。</p> <p>2. 参加者には IC カードを配布し、東京の充実した交通インフラを体験して頂けただけでなく、セッション参加者数管理を行ったことや、会場数の不足を補う手段として、展示会場内に12のセッション会場を、音響を配慮した上で設営するなど、新しい試みを行った。</p> <p>3. 会期後半二日間は展示会を市民へ解放。約1万人の参加を得、最新の交通システムを間近で体験頂くことにより、同会議のプレゼンス、当該分野の認知度向上に大きく貢献した。</p> <p>4. ボランティアの活躍が目覚ましく、ITS 会議の歴史の中でも評価が高いボランティアマネジメントが行われ、後々の ITS 会議に受け継がれる価値を東京で築いた。</p> <p>※ITS・・・Intelligent Transport Systems：高度道路交通システム</p>				

受賞会議					
会議名	和文) 国際酪農連盟ワールド デイリー サミット 2013 英文) International Dairy Federation World Dairy Summit 2013				
主催者	国際酪農連盟 日本国内委員会	開催都市	神奈川県 横浜市	開催期間	2013年10月28日～ 2013年11月1日(5日間)
参加人数	2,226名(海外:792名 国内:1,434名)			参加国数	56カ国・地域
受賞理由	<p>1.アジアから過去最大の参加者を集め当会議史上最大規模の参加者となったこと、ミルクバー等により日本の優れた乳・乳製品を飲食してもらうことによって質の高さを実感させる工夫を行ったこと、テクニカルツアー、市場ツアー、北海道や栃木への酪農ツアー等を実施したこと、これらにより日本全体の酪農・乳業を世界にPRできた。</p> <p>2.海外からアクセスのよい横浜から、地方を含む日本の酪農を紹介することで、日本全体の酪農産業に貢献した。</p> <p>3.みなとみらい地区を中心に4会場で横断的にスムーズに運営を行い、また、ファーマーズディナーではクルーズ船を使用したことにより、横浜の魅力の発信、イメージアップに貢献できた。</p>				

受賞会議					
会議名	和文) 第2回国際技学カンファレンス in 長岡 英文) The 2nd International GIGAKU Conference in Nagaoka				
主催者	第2回国際技学カンファレンス in 長岡 実行委員会	開催都市	新潟県 長岡市	開催期間	2013年6月21日～ 2013年6月23日(3日間)
参加人数	487名(海外:74名 国内:413名)			参加国数	14カ国・地域
受賞理由	<p>1. 長岡観光コンベンション協会との連携によって、実施計画段階より協力しながら実施。自主企画で発祥した国際会議であり、地域で開催する国際会議の例として他の地域の先駆的モデルとなっている。また、定期的で開催されていることで、地元の国際的知名度向上に大いに貢献している。</p> <p>2. 学生の参加も奨励し、次世代を担うリーダーの育成にも視野に入れ、グローバルとイノベーションの視点でリーダーシップを発揮できる人材の育成を進めた。</p> <p>3. 長岡市は古くから機械産業を中心とした産業集積が進んでおり、歴史的にも「米百俵の精神」に始まる人材育成に熱心な風土があり、その特徴を生かしながら本会議を開催することで、地元産業界の活性化、研究・議論の更なる深化、そして国際化に大きく寄与した。</p> <p>※技学・・・現実の多様な技術対象を科学の局面からとらえ直し、それによって、技術体系をいっそう発展させる技術に関する科学。理学・工学はもとより経営・安全・情報・生命についての幅広い理解を踏まえ、未来のイノベーションを志向する実践的技術を創造するものである。</p>				

受賞会議					
会議名	和文) 国際コモンズ学会第 14 回世界大会 (北富士大会) 英文) The 14th Global Conference of the International Association for the Study of the Commons				
主催者	国際コモンズ学会 北富士大会 組織委員会	開催都市	山梨県 富士吉田市	開催期間	2013 年 6 月 3 日～ 2013 年 6 月 7 日 (5 日間)
参加人数	407 名 (海外 : 278 名 国内 : 129 名)			参加国数	56 カ国・地域
受賞理由	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然資源など複数の人々が利用する資源の共同管理について研究発表する同会議は、東アジアで初開催となったが、大会の受け入れにあたり、研究者とともに国・地方行政・地元団体が連携し、手作りの会議を作り上げた。また、秋篠宮殿下のご臨席を賜った他、関係各省庁、JNTO も会議参加するなど、多くの連携を行った会議であった。 2. 会場が多数にまたがっていたが、シャトルバスをリンクさせる工夫を行い、スムーズな運営を行った。結果、移動中に富士山をはじめとした雄大な景色を望むことが出来、移動も楽しみの一環となり、参加者満足度向上につながった。 3. レセプションは大規模な屋外会場で実施。祭り会場のように、出店を展開。地元住民と協働し、地元食材を使ったメニューの作成・提供を行ったことは、地元住民の国際会議開催・当分野への理解促進に大きく貢献した。 4. 地場産業である織物を使用したコングレスバックを作成。地域製品の PR と同時に、地域経済へ貢献した。 				

受賞会議					
会議名	和文) 第 16 回コンピュータ医用画像処理ならびにコンピュータ支援治療に関する国際会議 英文) The 16th International Conference on Medical Image Computing and Computer Assisted Intervention-MICCAI2013-				
主催者	第 16 回コンピュータ 医用画像処理ならび にコンピュータ支援 治療に関する国際会 議実行委員会	開催都市	愛知県 名古屋市	開催期間	2013 年 9 月 22 日～ 2013 年 9 月 26 日 (5 日間)
参加人数	993 名 (海外 : 791 名 国内 : 142 名)			参加国数	39 カ国・地域
受賞理由	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会議 HP にて、空港からのアクセス・市内交通機関の案内など、参加者の視点から分かり易い解説を行い、参加者のアクセス面の不安を払しょくした。 2. 大学での開催であったが、飲食の質・量を十分に確保しただけでなく、レジャーシートや折り畳み傘をカンファレンスキットに同梱して参加者が気軽にキャンパス内でくつろげるように配慮するなど、運営面で工夫を行ったことは、今後の大学での国際会議開催のお手本となる。 3. 海外から多くの参加者を集めたことや、パーティーアトラクションでは太鼓・琴・芸子による舞踊など伝統芸能を披露したことで、広く日本文化の PR に努めた。 				

受賞会議					
会議名	和文) 2013年京都国際地理学会議 英文) IGU KYOTO REGIONAL CONFERENCE 2013				
主催者	京都国際地理学会 組織委員会	開催都市	京都府 京都市	開催期間	2013年8月5日～ 2013年8月9日(5日間)
参加人数	1,431名(海外:743名 国内:688名)			参加国数	61カ国・地域
受賞理由	<p>1.本会議が開催されることによって、国際地理オリンピックも京都で開催され、多くの高校生参加者を集めた。また、組織委員会を関西在住の地理研究者、中学・高校教員を中心に組織し、関西地域における地理教育実践者・研究者のネットワーク構築に貢献した。</p> <p>2.市民公開講座の他、京都大学博物館にて地図展が開催され、市民参加型の会議となり、地理学への関心も高めた。</p> <p>3.開会式では秋篠宮同妃両殿下のご臨席を賜ったことによって世界における日本の地理学研究的国際的地位を高めただけでなく、地理学研究者による巡検が国内で幅広く行われ、日本の地理学研究的発展に大きく貢献した。</p>				

受賞会議					
会議名	和文) 第11回世界生物学的精神医学会国際会議 英文) 11th World Congress of Biological Psychiatry(WFSBP2013)				
主催者	日本生物学的 精神医学会	開催都市	京都府 京都市	開催期間	2013年6月23日～ 2013年6月27日(5日間)
参加人数	2,491名(海外:1,709名 国内:782名)			参加国数	77カ国・地域
受賞理由	<p>1. アジア初開催となったが、海外から多くの参加者を集めたこと、そして「白沙村荘」や「The SODOH HIGASHIYAMA KYOTO」等、京都らしいユニークベニューで夕食会を開催したことで、日本・京都の魅力発信に貢献した。</p> <p>2. 天皇皇后両陛下の行幸啓を賜り、広くマスコミに取り上げられたことによって社会への大きなPRとなった。</p> <p>3. 市民公開講座が行われ、市民132人の参加を集めたことによって、同大会・同分野への一般市民への理解促進、認知度向上に貢献した。</p>				

以上